

高知県からのお知らせ

全国一の森林率84%を誇っている高知県。その木を使って、風土に合った家を建ててみませんか。県では、「こうちの木の住まいづくり助成事業」であなたを応援します。柱や梁等の8割以上に県内産乾燥木材を使うと、量に応じて、最大80万円の補助金がもらえます。また、JAS製材品の需要拡大のため支援を行っています。

【要件】

高知県内で新築、増築、リフォームを行う木造住宅

- 延べ面積の過半の用途が住宅であること
- 県内産乾燥木材を使用すること
新築・増築の場合…基本部位に80%以上使用すること
リフォームの場合…リフォーム部分の木材に使用すること
- 新築及び増築は瑕疵担保責任保険加入等住宅であること

【対象者】

対象住宅を取得(所有)し、自ら居住する個人(賃貸を目的とするものは除く)

申込や申請の手続きは、建築士か行政書士に委任できます。提出書類には設計や施工に関するものが多く必要なので、建築士に委任するのが一般的な方法です。家を建てるのが決まったら、建築士さんに一度ご相談ください。補助額の算定方法や手続きなど、制度・事業の詳細については高知県庁HPでご覧いただけます。

【補助額】

①基本部位、その他の部位

県内産乾燥木材(JAS製品)の使用量m³(小数点以下切捨て)×20,000円=補助額①

②基本部位、その他の部位

県内産乾燥木材(JAS製品以外)の使用量m³(小数点以下切捨て)×12,000円=補助額②

③内装木質化

県内産乾燥木材の使用面積m²(小数点以下切捨て)×2,000円=補助額③

④長期優良住宅加算

長期優良認定木造住宅／10万円加算(地域型グリーン化事業など併用できない事業もあります。)

⑤子育て加算

対象者の世帯に児童手当受給対象となる児童が2人以上いる場合 ③の内装木質化と同額を加算

合計の上限は80万円

こうちの木の住まいづくり 検索



CLTとは?

Cross Laminated Timberの略。ひき板を繊維方向が層ごとに直角に交わるように貼り合わせた、大判の木質パネル建材。



CLT工法のメリット

木の高層大型ビル建築が可能。柱や梁がなく、空間を広く使用できる。熱伝導率はコンクリートの約1/10。大きな面材の組み合わせのため、工期が短い。RC造と比べ、基礎工事費や材料搬送費が軽減される。

- 柱・梁：スギを使用。一部ヒノキ(全て高知県産材)
- CLT：スギ(高知県産材)
- 令和元年度サステナブル建築物等先導事業(木造先導型) 98,378千円
- 受賞歴
令和2年度木材利用優良施設コンクール審査委員会特別賞
2020年ウッドデザイン賞
第18回高知県木の文化賞
第24回木材活用コンクール 優秀賞



エントランス左手。木工口を表面に使用することで、木目の可愛らしさをアクセントに。



施工写真提供協力／(有) 舩建築工房
<http://www.sou-af.jp/>



快適なくらし 木の家が持つ魅力をチェック。

心と体に優しい、木造学舎

サステイナブルなキャンパス

2020年4月。36年の歴史をもつ高知学園の4年制大学新設にともない、新学部棟8号館が完成しました。

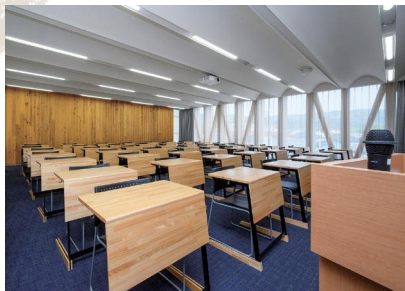
この建物は、高知県初となる木造3階建ての校舎で、構造体の一部にCLTが活用されています。1階から3階までの縦方向に、厚さ15cmのCLTを2枚重ねにした3m×12mの大判1枚板を使用。これは現在日本で行うことができる最大級の大きさで、日本初の使い方です。

環境配慮型社会の構築に対する貢献が評価され、再生産可能・持続可能な資源である木材が、あらゆる部分に使用された施設として、さまざまなメディアでも取り上げられてきました。

学生たちの心のオアシス

当初、鉄筋コンクリート構造を予定していた学園側に、設計を手掛ける(有)舩建築工房から木造が提案されました。「まさしく理想の提案でした。管理栄養士や臨床検査技師を養成する大学ですから、木が、繊細な検査に携わる学生の心理面にどれだけ好影響を与えてくれるのだろうと、想像するだけでワクワクしました。」と、学園参与の二宮久美先生はいいます。

骨組み材や仕上げ材だけでなく、造り付け家具にもふんだんに木を使用。目の前には木の色、香り、手触りに満ちたあたたかい癒しの空間が広がります。学生たちにとって、精神を安定させ、より充実した学びに向かう姿勢づくりに欠かせない学舎が



高度な実験研修用途を併せ持つ教育施設を木造で実現。ナチュラルな木の風合いが、緊張やストレスの蓄積を防ぎます。

完成しました。

コミュニティスペースとしての役割

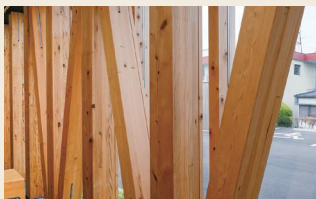
人の命に寄り添う人間教育を行う大学として、学園では毎年「いきいき健康フェア」を開催しています。地域に役立ちたいという思いを込めて、県民で旭地区の65歳以上の方を対象に、血圧や骨密度の計測、栄養指導など、各学科の学生が行っています。

2020年に予定されていた8号館での開催は、「コロナ感染を考慮し、ごく少数人数での実施を余儀なくされました。」近所の方のご理解があつてこそ、こうして学園を続けてこられました。今後も可能な限り、皆さんに親しんでいただけるように、年間を通して催事を行っていききたいですね。」と、二宮先生は思いを巡らせます。「実は、基礎工事中は近隣から騒音への苦情が殺到して、どうなることかと思いました。」と苦笑い。でも、大きな木材が次々と搬入され、クレーンで吊上げられていき、木を叩くコンコンコンという音があたりに響くようになると、状況は急変。お叱りの声は、完成を心待ちにする声に変わったといえます。「近隣に寄り添う、開かれた大学でありたい」という大学側の思いは、新学部棟8号館の完成により、大きく前進。今、大学敷地内では、ごく自然に犬の散歩やウォーキングをする近所の方の姿を見かけます。

「将来、学園全体の木造化ができればいいですね。」二宮先生は期待に胸を膨らませます。木づくりの学舎という、訪れるひとたちをいつでもあたたかく迎え入れる、地域に愛され、地域に役立つ空間ができました。



実験用具の収納棚も木製。



大きな窓に強度とデザイン性をプラス。

